

5/14-15 米帝によるカンボジア侵略戦争に起る！ 米帝の海外相訪ジャカルタ阻止 斗争に起る！

スローガン

- 一、米帝のカンボジア侵略戦争、米帝のベトナム戦争のインドシナ半島への拡大反対！
- 一、A、ロンノル「政府による大量虐殺糾弾」 B、北爆再断反対！
- 一、日帝によるカンボジア侵略への武力加担を許さる！
- 一、米知訪ジャカルタ阻止！ アジア太平洋諸国会談糾弾！
- 一、B五二番進を許さる！ 一切の軍事基地撤去！
- 一、米帝の核戦略体制に反対！ 非核の施政を推進！ 反対！
- 一、日米共同声明糾弾！ 自衛隊撤去！ 自衛隊政府打倒！
- 一、村松による反米主義的、反米民族主義的企図、小マル急進主義者のカンパニイ的のりきりを許さる！ 戦斗的ベトナム反戦、反安保、抑圧斗争を展開せよ！
- 一、アメリカ、抑圧的村松者、学生の反戦斗争と連帯し、内保反戦斗争を革命的に推進せよ！
- 一、5、14-15 米知訪ジャカルタを阻止せよ！
- 一、5、29 反戦、反安保、抑圧全口学生がネストを打ちとれ！
- 一、5、31 アイバノ星地新斗争に決起せよ！

はじめに

アメリカ帝国主義は南ベトナムにおける自らの利益を固守するために、この間、ラオス、カンボジアに展開した新に「侵略」行為は、ラオスのベトナム化、カンボジアのラオス化をもちつることによって、ベトナム戦争を全インドシナへのそれへと一挙に拡大させた。ラオスへの戦火の拡大失敗に終わりを、それをさきかえすために行ったカンボジアへのシヤヌーク追ひ詰めの策略——ベトナム戦争の「ベトナム化」のために彼らが行ったこの策略は、しなはなならず、自らをインドシナ戦争の泥沼に引きずりこむ結果となったのである。このような事態がいかにしてもたらされたかを説明しつつ、われわれは革命的な反戦斗争を強力に押し進めるのである。これは、すでにわれわれの主張はこの間、戦斗的な行動を展開してきているし、さらに、5、14-15 カンボジア反戦の斗争を統一行動とあし、革命的に推進していくのである。これは、いけぬ。

カンボジアをめぐる情勢

スターリン主義者の反アメリカ的対応

米帝によるカンボジア侵略はベトナム戦争の、敗北的争闘の「打開」のためになされたものであることは、いまでも明白である。5月1日、ニクソンはカンボジアへの空爆を「南ベトナム防衛」の名のもとに宣言し、カンボジアの聖域（北ベトナム、民族解放戦線の兵隊、兵器、物資の大量集結地域）——一掃を実現することを明らかにしていった。翌2日、1200の米機による北爆を行い、新たにベトナム戦争をインドシナ全域へと拡大せんとした。アメリカはCIAにテコ入れさせつつ、カンボジアグリーターによるベトナム戦争の敗北的争闘をのり切らんとし、純粋民族主義者シヤヌークの追ひ出せと、クーターによるロン・ノル「政権」をタッチあげたのである。米帝のこうした侵略的背景には、クーターによるロン・ノル政権を依りしていくことと困難なこと即ち、北ベトナムへの危機感とラオスにおける敗北的大きな要因といえる。さらにベトナム戦争のベトナム化を木・ナミンルート、シヤヌークルートとの切断とあししてなしてきているわけである。米帝は主権は、極東軍事戦略体制を却のラオシヤの施政の返還とあして日米軍事同盟を極東軍事同盟へと再編強化し、ニクソンドクトリンにもとづいて、大規模な戦闘へと転換してきている家である。こうした米帝の動きに対し、中ソはいかなる対応をしているのか。

ところで米帝の侵略行為の拡大によつてもちらされたわかる事態に対して、今日スターリン主義者たちは、さきにその無力性をさらけだしている。この間アジアを中心として、ますます狂暴化する米帝帝国主義者の侵略行為をさきに「アジア完全保障体制の確立」なる主張をかねてきたクレムリン官僚——彼らは、平和共存をあいねわらず戦闘化し、ベトナム戦争のジュネーヌ式解決に期待をなしている。他方中国は、米中会談などの外交攻を展開し、政治的進歩を化へのさきかえしをはかりながら、ベトナム戦争の拡大に對しては、「反米、愛国」の「アジア統一戦線」の結成に働きだしている。ベトナム——インドシナでは北ベトナム——南ベトナム戦線——ハテトラオ——加シヤ今下民族解放戦線の結成を押し進めている。だがしかし「アメリカ帝の侵略をはねかえして」

学生公議

いく。」「国際反戦斗争の組織化を完全には若し、反米武力総動員にもとづく「反米、救国」なる民族主義への増々自己を純化させている。こうした中ソ、スターリン主義者の「民族共産主義」の名のもとによる、民族主義的に企められた対応にもささげられつつ、米帝国主義者の侵略をささえ、ホトナム戦争の泥沼化はもたらされていのである。

日本帝国主義者の対応

今日、日本政府支那階級は、米帝のカンボジア侵略に対していかなる対応をしているのであろうか。

英仏露、西政南口主のニクソン政策への反対に對して、米帝の政策を支持し、加担せんとしているのである。佐野は「カンボジアの中立回復のためにはやむをえぬ」と公言し、ロン・ノルを認めたり、米帝の侵略に暗黙の支持を打ち出しているのである。そして米帝の政策を支持し、加担せんとしているのだ。その一つが英知外相のジャカルタ訪問にあり、アジア会議への参加にあるのだ。これをおして日本帝国主義は政治的発言力の強化を迫っているのである。参加国は七ヶ国のみであり、その内米たるや、米帝の侵略に、支持もしくは、加担しているのみに限られていることにあいてもこのことは示されている。日帝はこれをおして、東南アジアへの新植民地主義的進出の展望として叩き、東南アジア諸国間のヘゲモニーを固めんとしているといえる。われわれは南口主とスターリン主義の相互依存と相互反発として現代世界をおさえねえしつつ、同時に、日米關係をも分析してきた。日米共済を区切りとして、独裁同盟のマルシア的進取政策を打ち出した日本帝国主義者は、核つき返還をもつて、同時に日米軍事同盟強化の一手を打ち固めてきているのであつて、二つしたこととの關係で、極東の解放を九十九年現実の同盟となつてくることはいふまでもない。

既成反戦翼、社会共の討論会主義的
的反米民族主義の本質を
暴露し、「革命主義」的ミロ
をもつてある反戦翼フスター
ン主義の本質を暴露し、
革命的な戦争を推進せよ

カンボジアをめぐる米帝国主義者の侵略と、日本帝国主義者のこれへの支持と加担という事態に、既成反戦翼共は、さにもや無力性をさけだしている。社会

スケジュール

- 5、14 米帝のカンボジア侵略新反戦同盟総集会
(4日新反戦)
- 5、15
- 5、23 全南西学生総集会
(5日京都府新反)
- 5、29 全日学生スト統一行動
- 5、31 アイヌノミナール基地新反戦

党はいかに反米、民族、前江、日共はたに無方針とジグザグをくりかえしているだけである。「国家の主権を犯すとか」、「民族の独立、中立、中立をあげやなす」といふ、民族主義の一方の純化と、議会内説教にうつつあふれはしているのや今日の日共そのものである。反戦斗争のインターナショナルな展開にこそ向ふはたてられなくてははならないのだ。日共、民族の向ふなどでは決してなく、ましてや、弱々しく、米帝の侵略に抵抗したり、日帝の加担反対の要求を議会主義的に言うことには決して、本質的打撃などありえない。

一方、ハマルシア急進者のように、「カンボジア侵略の危機を内亂へ」とな「カンボジア民族解放斗争に連帯し」といふ見「反戦的言辭」をもつてあふることにある。反戦斗争の危機的状況は決して突破できないのである。カンボジアをめぐる中、ソスターリン主義者の反米口利タリヤの対応、即ち、ソ連クレムリン官僚による平和共存の戦略化をうくる「ジュネーヌ方式」とな、中込にふる反米武力総動員をうくる武力民族解放斗争のその民族主義の本質をも断ちとして暴露し、弱々しく、議会内では既成の侵略加担反対の要求を行つていくにすぎない社会共指部と対決し、それをのりこえ場所的に反戦斗争を革命的に押し進めていくこと、ここにこそ向ふの本質はあるのである。

全土での市大の学生反諸君

五月十五日、英知外相はアジア会議参加のためのジャカルタ訪問を行おうとしている。それにさきだちわれわれは五月十四日、新野公園において「米帝のカンボジア侵略新反戦」、英知訪ジャカルタ阻止斗争を一大統一行動として打ちこみ、革命的な戦争の突破口としていくのでなくてはならないのである。一つの斗争放棄と、斗争の歪曲を弾知し、そしてヒクト主義的、全等連排除運動を打ち破り統一行動の実現をおし、革命的な戦争の推進をおし、ゆめいする日本階級斗争の突破口としていくのでなくてはならないであろう。われ等学生会議は、全等連閣内共闘会議とともにそつしたヨリス最先端になつてようであろう。斗争学校は学生会談に結集せよ。